

社会教育



CONTENTS

- ◆ 特集 1
「ふくしまの未来を創る地域と学校の連携・協働」
- ◆ 論説 3
「地域と学校の連携・協働の在り方」
～ふくしまの未来を担う子どもたちを育むために～
福島大学共生システム理工学類 教授 小沢 喜仁 氏
- ◆ 輝け！社会教育 4
佐藤 房枝 氏（会津坂下町）
堀金 保男 氏（只見町）
福島市杉妻学習センター
郡山市立柴宮地域公民館
棚倉町立棚倉幼稚園父母と教師の会
会津若松市立行仁小学校父母と教師の会
下郷町立旭田小学校父母と教師の会
西会津町地域学校協働本部
野木沢子ども教室（石川町）
おのだなかよし教室（白河市）
南会津町図書館
ばんげ読み聞かせの会（会津坂下町）
- ◆ 平成30年度 社会教育関係各種表彰受賞 10
平成31年度 福島県社会教育施設行事予定 10



特集「ふくしまの未来を創る地域と学校の連携・協働」

1 地域と学校が連携・協働する必要性

地域における教育力の低下、家庭の孤立化等の課題や、学校を取り巻く問題の複雑化・困難化に対して社会総がかりで対応することが求められています。そのためには、地域と学校がパートナーとして連携・協働するための組織的・継続的な仕組みが必要不可欠です。

また、新学習指導要領が目指す「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校は地域との連携・協働を一層進めていくことが重要であり、地域においても、より多くの地域住民等が子どもたちの成長を支える活動に参画するための基盤を整備することが求められています。こうした社会的背景を踏まえ、平成29年3月に社会教育法が改正され、地域学校協働活動の全国的な推進に向けた規定の整備が行われました。

本県においては、東日本大震災及び原子力発電所事故による避難指示で、ふるさとを離れなければならなくなった経験をとおり、改めて学校は、地域コミュニティの核であると再認識されました。避難指示が解除された地域では、学校が復興

の拠点として、地域や住民を勇気づけ、コミュニティの再建を担っているなど、地域づくりと学校づくりがセットで進んでいます。

福島県教育委員会は、平成29年3月に今後の教育施策の方針をまとめた「頑張る学校応援プラン」を策定（H30.3月、H31.3月一部改定）し、主要施策の一つに「地域と共にある学校」を掲げ、学校任せではなく、地域社会と学校が一体となって子どもを育てるとともに、学校も地域に貢献する体制づくりを積極的に進めることとしています。その取組の一つとして、平成31年2月に、地域と学校の協働活動や地域の課題解決に向けた創造的復興教育などを掲げる「福島県地域学校活性化推進構想」を策定しました。特に本県にとって、子どもたちが地域や復興の課題解決に参画する学びは、体験活動を更に充実させるとともに、郷土への愛着や誇りを培い、社会に対する当事者意識が芽生え、自己肯定感の醸成や志の育成に加え、価値観の多様化する中であっても迷うことなく主体的に生き抜く力が身に付くものと考えます。

2 地域と学校が連携・協働することでの効果

児童生徒にとって期待される効果

- ① 学力向上の基盤をつくります
- ② 「生きる力」の育成につながります
- ③ 社会性が育まれます

地域にとって期待される効果

- ① 地域の教育力が向上します
- ② 地域コミュニティが活性化します
- ③ 地域住民の生きがいつくりや自己実現につながります

学校・教職員にとって期待される効果

- ① 授業内容が充実します
- ② 地域との信頼関係が構築されます
- ③ 地域への理解が深まります
- ④ 多忙化解消につながります

3 地域と学校の連携・協働の視点

各学校の教育目標やねらい、子どもたちの発達段階を踏まえ、工夫して連携・協働活動を進めていくことが重要です。

地域の人材を生かす

- 学校支援ボランティア
 - ・読み聞かせ、各教科等への学習支援
 - ・環境整備支援、見守り隊、給食支援 等
- 企業や高等教育機関等との連携
 - ・職場体験、出前講座 等

地域の資源を生かす

- 地域資源の活用
 - ・文化財、企業、学校 等
- 社会教育施設の活用
 - ・公民館、図書館、博物館、青少年教育施設等での調べ学習や体験学習 等



地域へ参画する

- 地域でのボランティア活動
 - ・清掃活動、福祉活動、文化活動 等
- 地域の団体や行政等との連携
 - ・祭りへの参加、地域探検、安全マップ作成 等

学校の力を生かす

- 学校の教育力を生かした活動
 - ・家庭教育学級、PTA研修 等
- 学校施設を生かした活動と交流
 - ・防災キャンプ、宿泊体験 等

4

地域との連携・協働した活動の進め方



I

学校全体の連携・協働活動の総合調整を行う

地域との連携・協働活動の取組に関する計画の作成及び見直しを行います。

- 学校の教育目標と地域学校協働活動の取組の関わりが明確になり、整合性が図られます。
- 各教科等における地域との連携・協働活動の目的を明確にすることで、カリキュラム・マネジメントの確立につながります。
- 年間を通じた計画的な連携・協働活動を進めるとともに、地域との連携・協働活動を効果的に管理することができます。

II

教職員間の共通理解を図る

地域学校協働活動に関する校内研修を実施します。研修については、自校の取組状況、児童・生徒の実態、教職員のニーズ等を把握し、研修目的を明確にすることが大切であり、研修目的を踏まえ、内容・方法を検討します。

III

ボランティアとの共通理解を図る

教職員に対しては、地域との連携・協働活動の重要性の理解や研修の機会の提供とともに、ボランティアに対する理解を深めるための取組も行います。また、ボランティアは、子どもたちのためという思いをもって活動しています。そのようなパートナーとしてのボランティアに可能な範囲で「学校の経営方針」「教育目標」等の情報を提供し、一緒に考えながら活動の充実を図っていくことも大切です。

IV

子どもたちの教育活動の充実を図る

地域への連携・協働活動はあくまでも手段であり、目的は子どもたちの教育活動の充実にあります。よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指しています。

地域との連携・協働活動が「教科等の目標達成にどのようにつながるのか（何を学ぶか）」や「主体的・対話的で深い学びであるか（どのように学ぶか）」という視点から考えていくことがより充実した教育活動の実現につながっていきます。

V

学校の状況を地域に知ってもらおう

地域への情報発信は、地域との連携・協働活動の充実とともに、「地域に信頼される学校づくり」を進めていくために大切なことです。情報発信することで、地域と積極的に向き合い、学校が一層地域に開かれるとともに、地域住民や保護者の学校運営に対する理解が深まります。

また、「多様な地域の方々の参画の促進」につながり、多様な方々がそれぞれの専門知識や能力を学校支援で発揮することにより、児童・生徒の活動の幅が広がり、活動が充実していきます。

VI

地域との連携・協働活動を継続する

学校の状況に応じて、地域連携担当教職員や教頭、教務主任等と役割を分担するなど、チームとして取組を進めることが大切です。また、地域との連携・協働活動の状況や地域の人材情報等を蓄積し、学校全体で共有していきます。

VII

地域との連携・協働活動の成果を見える化する

地域との連携・協働活動がどれだけ児童・生徒の学習活動に効果があったかの評価を行います。評価の目的としては、以下の事項等が挙げられます。

- 地域との連携・協働活動がどれだけ効果があったのか活動の効果を図る
- 次回以降、何をどのように変えればいいのか取組の改善を図る
- 関係者の取組への意欲や関心を高める



論説 「地域と学校の連携・協働の在り方」 ～ふくしまの未来を担う子どもたちを育むために～

福島大学共生システム理工学類 教授 小沢 喜仁 氏



東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故から8年が過ぎようとする今、震災からの復興は地域の創生へとステージを移し、新たな付加価値の創出による産業の活性化、地域発のイノベーションが大きな鍵となっている。被災した方々も次第に戻りつつある状況だが歩みは遅く、人口減少・流出が社会問題となる一方で、福島イノベーション・コースト構想のもとに行われる廃炉事業が確実に進み、そのためのロボット技術開発、再生可能エネルギー事業や高度な農業事業の推進を目指して多くの企業が集積してきている。積極的な担い手確保や人材育成を図りながら、このような取り組みを積極的に進める必要がある。

新たな未来の担い手である子どもたちの教育においては、学校や家庭での教育に加えて、地域に所在する企業や地域の人々との連携による教育や地域のなかで子どもたちを育む環境や体制の整備が、キャリア教育の観点からも期待されている。小中学校の指導要領も改訂され、教科書を中心とするこれまでの学習・教授手法から、アクティブ・ラーニングと呼ばれる問題解決型学修（Problem Based Learning）への転換が求められている。大学教育においても同様であり福島大学においても本年4月より教育改革がスタートする。現行の大学入試センター（DNC）テストは2020年度から「大学入学共通テスト」へと変更が予定され、知識の深い理解と思考力・判断力・表現力を重視した作問への見直し、記述式問題の導入、英語4技能評価などが話題となっている。高等学校における教育も大きな変革が求められているといえる。

ふくしまの今の姿やこれからの地域の未来を子どもたちに伝えることができるかどうか、地域の創生において重要なポイントになっている。高等学校における福島イノベーション・コースト構想に係わる教育として、トップリーダー育成、工業分野や農業分野の人材育成も参画する企業の協力を得ながら行われ

ている。福島大学が中心となって行うCOC+事業の推進においては、[プレ・インターンシップ]として地域企業への訪問バスツアーの実施や、企業の若手社員を「キャリアサ

ポーター」として迎え学生たちの助言をいただく試みなど、地域経済を担う企業の新しいモノづくり・コトづくりへの挑戦に関する理解活動が行われている。「福島県生涯学習基本計画」においては、基本理念「ともに生き、ともに学び、ともに支え合う＝共生・協学」のもと、「ひろがる学び、深まるきずな、生涯学習社会ふくしま」とすることを基本目標としている。自ら学ぶことの大切さに加え、経験ある多様な人々が地域の未来を担う子どもたちへのサポーターとしての積極的な係わりが期待されている。地域文化の伝承や地域産業の活性化のためにベクトルを合わせることを基礎として新たな創造による変革を図ることが、復興・創生のための原動力であると考えている。

プロフィール

- 1986年4月 福島大学教育学部 助教授
- 1999年10月 福島大学教育学部 教授
- 2003年4月 福島大学地域創造支援センター長 併任 <2006年3月まで>
- 2004年10月 福島大学共生システム理工学類 教授 <現在に至る>
- 2006年4月 福島大学副学長（研究担当）・附属図書館長併任 <2008年3月まで>
- 2008年4月 福島大学共生システム理工学類 人間支援システム専攻長併任 <2010年3月まで>
- 2012年4月 福島大学副学長（地域連携担当）・地域創造支援センター長、国際交流センター長併任 <2016年3月まで>
- 2016年4月 福島大学理事・副学長（地域連携担当）・統括学系長、地域創造支援センター長併任 <2018年3月まで>

輝け 社会教育

平成30年度社会教育功労者文部科学大臣表彰

社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞して

福島県社会教育委員 佐藤 房枝 氏（会津坂下町）

このたび、このような賞を拝受するにあたり、なぜ私のような若輩者がと、大変恐縮しているところです。

社会教育は、学ぶことの大切さと人と繋がることの喜びを教えてください、人生を豊かにしてくれました。その中で出会った同じ志を持った仲間たち、一緒に地域のためと汗を流してくださった地域の方々は、かけがえのない宝物だと思っています。

特に東日本大震災後は、福島復興にいちばん必要なのは、「自ら考え、行動する人」「社会を良くしようと行動する人」を増やすことで、その役割を担うのが社会教育だと信じ、それを実現するため、微力ながらネットワークを広げ活動して

きたつもりです。

そんな中、福島復興のために自分たちにできることがあるのではないかと考え活動しているたくさん子どもたちに出会う機会がありました。彼らは、自信にあふれ自己肯定感のかたまりでした。これぞ、学校教育だけでは成し得ない、社会教育のなせる技だと確信しました。

ますます社会教育の重要性を実感し、今後も未来を担う子どもたちのために、地域の教育力を高める活動に少しでも尽力していければと思っています。



平成30年度社会教育功労者文部科学大臣表彰

只見町立明和小学校への協力と連携

明和地区読み聞かせボランティアの会 前会長 堀金 保男 氏（只見町）

この度、社会教育功労者として表彰の栄に浴したことは感激の極みであります。

省みますと、昭和28年大学卒業の際に都から教員免許状、文部省から司書・司書教諭の免許状を受け県内の公立学校への勤務に就きました。

平成4年退職まで、校内での担当とは別に司書教諭として県図書館連絡協議会に参加したり読書感想文コンクールなどの審査にあたり、県生涯学習講座等へも参加しました。町史編さん委員・県文化財保護委員・町生涯学習推進委員・町昔ばなしの会等の役員も務めました。

平成10年に明和小学校からの要請により、「読み聞かせの会」が自発的な学校への協力者たちで結成され、私も含め15名の参加がありました。図書選び方・読み方・

子どもへの接し方などを勉強しながら現在も継続されています。

昨年、ある病院でのこと。隣の人から「読んでもらった“八犬伝”面白かった。」また、町文化祭で高校3年生から、“堀金さん”と呼びとめられました。中学・高校と6年間が過ぎたのに、読んでやった本や人のことを覚えてくれていたのに感動し、会での活動に自信を持ちました。

先日の会合の際に、「町の人口はダム建設の時の1万5千人から4千人と減少し、子どもの数も少なくなったが、地域の子どものを、学校に協力して育てていくために皆で努力しよう」と誓いあいました。



輝け 社会教育

平成30年度優良公民館文部科学大臣表彰

福島市杉妻学習センターの活動紹介

福島市杉妻学習センター

杉妻学習センターでは、地域の学びの場をとおして、個々人が豊かなライフステージで活躍することを目指し、2～4歳児と保護者を対象とした「すこやかファミリー教室」、小学4～6年生を対象とした「すぎのめわんぱくクラブ」、成人女性を対象とした「コスモスカレッジ」、高齢者教育の「杉妻寿大学」、主に中高年を対象とした一般成人向けの「ベターライフセミナー」などの主催事業ほか、「親子ちまき教室」、小学校と連携して行う「昔遊びの会」、「だんごさし」、さらに地区青少年健全育成推進会を中心に実行委員会を作り、夏休みに行う「すぎのめこども宿」など、地域ボランティアと子どもた



ちの交流を図る事業を展開しています。

また、地域の関わりを重視した事業「いい街“すぎのめさんぽ道”」では、地元商店街と連携し、加盟店から講師を迎えて「子育て応援！マッサージ講座」（講師：接骨院）や「おうちダイエット講座」（講師：衣料品店店主）、「プロから教わるストレッチ講座」（講師：ゴルフ教室主催者）などを開催しております。地域で活躍する講師から学びを得ることにより、地区住民の地域に対する意識と絆が深まっております。

これからも、“地域と共に歩む学習センター”として日々の事業を展開していきたいと考えております。



平成30年度優良公民館文部科学大臣表彰

郡山市立柴宮地域公民館の活動紹介

郡山市立柴宮地域公民館

当公民館は、永年地域の拠点として、地域住民や各種団体、学校等と一体となった地域づくりを積極的に進めています。当地域では、大型団地を抱えており、子育て世代の就労形態の変化に伴う、子どもの安全・安心な居場所の確保が課題となっていました。このような中、公民館が拠点となり、地域の子どもは地域で育てると意識の高揚を図り、地域一丸となって子どもの居場所づくりを推進するため、住民と学校・家庭の連携調整を行い、地域連携のもと事業を行っています。

具体的には、「しばみやキッズサークル」を年間通して実施し、子どもの成長には体験・経験が第一



との観点から、多様な分野を取り入れ、また、「しばみや男塾（団塊の世代対象）」「しばみや学級（女性対象）」との世代間交流を取り入れ、学年を超えた仲間づくりや地域住民との交流を図っています。

また、地域内の高齢化が進んでいるものの、高齢者や団塊の世代層が有する知識・技術を貴重な地域資源として捉え、地域課題の解決に活かせるよう、「ボランティアしてみ隊」「しばみや男塾」等の主催事業を通し、地域間交流や青少年活動支援、世代間交流などを積極的に展開しています。

今後も、地域に寄り添い、地域の皆様とともに、「より一層親しまれる公民館」を目指して参ります。



輝け 社会教育

平成30年度優良PTA文部科学大臣表彰

棚倉町立棚倉幼稚園父母と教師の会の活動紹介

棚倉町立棚倉幼稚園父母と教師の会

本園の父母と教師の会が、栄えある今年度「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞できましたことは、たいへんな光栄なことと感じております。

東日本大震災の際には、園舎を使用することができなくなり、新しい園舎ができるまでの間、2つの幼稚園に分かれて生活していた時期もありました。引き継いできたPTAの良き伝統と応援して下さる地域の方々のおかげと考えております。

本園では、父母と教師の会の役員を中心に、学級、教養、厚生
の3つの委員会で構成されており、それぞれの委員会の出席率はほぼ100%で役員の意識が高く、



積極的に活動に取り組んでいます。

幼児期だからこそ、「親子の絆を大切に活動をする」ということで、親子で凧を作り、「親子凧揚げ大会」を実施し、アトラクションとして、PTA役員が作成した干支の連だこを上げたり、「夕涼み会」という縁日的なイベントを行い、最後に花火を打ち上げたりしています。これらの活動は、園児たちの楽しみになっています。



今年度から3歳児保育が始まり、園児数199名、県内の公立幼稚園で3番目に大きい幼稚園となりました。園児たちの健やかな成長を目指して、今後ともより良いPTA活動に努めてまいります。

平成30年度優良PTA文部科学大臣表彰

会津若松市立行仁小学校父母と教師の会の活動紹介

会津若松市立行仁小学校父母と教師の会

本校PTA活動は、昭和23年に設立し、長年にわたって継続した活動を続けており、地域、保護者、学校が一体となって互いの研修活動にあたって参りました。

保護者の加入率は100%で、常勤の先生方も全員加入し、活動しています。本部役員を中心に、年5回の合同委員会を決議機関として、年間を通して活動しています。本部役員と総務、文教、厚生、広報、校外補導の5つの専門委員会を組織し、1～6年・なかよし学級の7つの学年委員会から構成されており、それぞれの特性に応じた活動を展開しています。



広報活動としては、毎年3回PTA会報誌

「行仁だより」を発行しています。昨年度までで205号を数え、長年の本PTA活動の歴史を垣間見ることが出来ます。学校行事への協力という点では、運動会と行仁フェスティバルでの活動が顕著です。運営、準備等はもちろんのこと、不審者対策やバザー、模擬店等を実施し、大変好評を博しています。



行仁地区防犯協会、地区補導委員、地区青少年協、区長会等の各種団体の協力を得ながら、2019年度より始まる学校改築に向け、より子供達に寄り添ったPTA活動が展開できるように、工夫、改善を模索しています。

輝け 社会教育

平成30年度優良PTA文部科学大臣表彰

下郷町立旭田小学校父母と教師の会の活動紹介

下郷町立旭田小学校父母と教師の会

旭田小学校PTAは昭和24年に創立しました。本組織は、児童の健全な成長を図るために保護者と教師が協力し、会員相互の教養を高め、親交を深めることを目的として活動を展開しています。

主な活動としては、毎年7つの地区委員長を中心にPTA会員が話し合い、児童の健全育成に向け、伝統文化・ボランティア・学習会・旅行等の多彩な活動内容を企画し、地区の児童と保護者が楽しく過ごせる時間を設け活動しています。さらに、各地区では、町青少年健全育成機関と連携して、グランドゴルフや伝統行事等において、高齢者との世代間交流活動にも積極的に取り組んでいます。



また、学年委員会でも、教師と保護者が協力し合い、学年の発達段階に合わせて、地域の自然や教育施設等を活用しながら、鱒つかみ体験、ピザ・バター作り体験、そば打ち体験、ペタンク、キャンプ等体験的な活動を積極的に実施し、児童の豊かな学びと社会性を育てています。

本校のPTA会員は常にコミュニケーションを図り、会員の意見を大切にしながら活動してきました。今回の優良PTA文部科学大臣表彰を励みとして、今後とも子どもたちの健やかな成長のために「チーム旭田」一丸となってがんばってまいりたいと思います。



平成30年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰

西会津町地域学校協働本部の活動紹介

西会津町地域学校協働本部

本事業は、平成29年度に県のモデル地区として、地域学校協働本部を設置し取り組んでいます。

今回の受賞は、学校や地域の方々が熱い思いで子どもたちの成長を支えてくれた結果だと感じています。

主な活動としては、学習支援活動、家庭教育支援活動、地域活動・ボランティア活動の三つを柱に、事業を展開しています。



その中でも、本町の特出すべき事業としては、県内八つのモデル地区の内唯一本町のみが取り組んでいる家庭教育支援活動です。具体的な活動としては、まず、家庭教育

相談室「こころのオアシス」を西会津小学校内に設け、子育て中の親やその家族、さらに地域の方が気軽に安心して家庭教育の相談ができる環境を整えています。

また、今年度からは、家庭教育の「届けたいところに届かない」という課題解決のため、町内の企業に出向き、家庭教育講座を行っています。

今後も、地域から学校への一方向の支援だけではなく、学校や家庭、地域が双方向に連携・協働し、教育の充実や地域の活性化につなげていきたいと思っています。



輝け 社会教育

平成30年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰

野木沢子ども教室の活動紹介

野木沢子ども教室（石川町）

わたしたち石川町の子ども教室は、「体験の場」、「交流の場」、「遊びの場」として特色ある活動を展開しています。ジャガイモやスイカなどの野菜作り体験や収穫した野菜を使った料理教室、スポーツや文化的活動など様々な体験活動プログラムを実践し、またお手玉やメンコなどの昔遊びに加え、ペットボトルロケット実験やポップアップ絵本づくりなど豊かな遊びの場を提供しています。コーディネーターにより、学校の授業や家庭では経験できない体験活動を企画していることも



あり、子どもたちは興味を持ち意欲的に参加しています。

子ども教室において、これらの豊かな体験活動を可能にしているのが安全管理員等のスタッフ、数多くのボランティア、地域の様々な団体の方の参画・連携・協力です。地域の大人と子どもが交流する場となり、地域の方々にお世話になり、石川町の「子ども教室」が文部科学大臣表彰を受賞できましたこと感謝と共に心よりお礼申し上げます。これからも皆様の力を借りながら、子どもたちが今まで以上に安全・安心で放課後を楽しく過ごせる環境を整えていけるよう努めてまいります。



平成30年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰

おのだなかよし教室の活動紹介

おのだなかよし教室（白河市）

この度の受賞は、たくさんの方々のご指導とご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

おのだなかよし教室は、放課後子ども教室として平成17年度に立ち上げ、14年目を迎えます。小野田小学校児童クラブと連携し、活動を実施しています。

学校の下校時刻から午後4時まで、週2日程度活動しております（学校の行事で変更あり）。また、学校の要請を受けて、授業参観日にも子ども教室を開催しております。

通常の活動は、教室での宿題やオセロ、手作りの玩具を使った遊び、体育館や校庭でも遊具やボール遊びをし、体をいっぱい動



かしています。外では季節の植物や昆虫探しにも目を輝かせるなど、自然豊かな環境で活動ができています。

伝統行事も大切にし、七夕さま、お月見さま、だんごさし（1・2年生は生活科の授業の中で、3年生以上は昼休みの時間中に）を体験しています。

この子ども教室を通して、地域の子どもの顔がわかることが一番うれしく思います。

学校、家庭、行政、地域の私たち安全管理員が心をひとつにし、地域の子どもの健やかな成長の一助になれば幸せです。

人材不足（確保）が課題にありますが、皆様のご協力をいただきながら継続して参ります。



輝け 社会教育

平成30年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）の文部科学大臣表彰 南会津町図書館の活動紹介

南会津町図書館

南会津町図書館は、平成16年に田島町図書館としてオープンし、平成18年南会津町合併に伴い、南会津町図書館へ名称を変更し、現在に至っております。施設は、文化ホールや保健センター等をもつ『御蔵入交流館』の中にあり、南会津郡内唯一の図書館として、資料の提供や収集、読書活動の推進を図っています。

読書推進活動については、1年を通して、「わくわくとしょかんワーク」を実施しています。内容は、毎月第3土曜日にボランティアの協力を得ながら実施する「おはなし会」や、5月の連休、夏休み、クリスマスに実施する「映画鑑賞会」などで、子どもや保護者がより図書館を



身近に感じていただけるような事業の実施に努めています。

また、町の重点施策である少子・高齢化対策に沿って、乳幼児期から本に親しんでもらう機会をつくるため、6～8カ月児健康相談開催に合わせ、絵本を贈呈し、読み聞かせの効果や手法を指導する「ブックスタート事業」や、2歳児歯科健康診断に合わせ、読み聞かせを行うなどの活動をしており、一方、高齢者に対しては、介護施設等を訪問して、紙芝居や手遊びの実演をするなどの活動をしており、



今後も、住民の皆様に、親しみを持っていただける図書館を目指して活動を進めていきます。

平成30年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）の文部科学大臣表彰 ばんげ読み聞かせの会の活動紹介

ばんげ読み聞かせの会（会津坂下町）

ボランティアサークル「ばんげ読み聞かせの会」は、会員10名で「心豊かな子に育ってほしい」という気持ちから平成7年より23年間、幼稚園・保育園・保育所・小学校・中学校・高校・介護施設・公民館で年間116回読み聞かせを実施しています。また、活動を通して、私たちも子どもたちの輝く瞳からたくさんのエネルギーをもらっています。



この地道な活動が評価され平成30年4月には「文部科学大臣表彰」を受賞することができ会員一同感激しております。

高校においても読み聞かせを実施したところ、「自分たちもやってみたい」というこ

とになり、自主的に「出前読み聞かせ」を幼稚園・学童保育で実施し、高校生が練習の成果を発表し体験できたことは、これからの学校生活や社会に出てからの自信となり生かされていくことと思います。

平成26年には、20周年記念発表会「朗読と絵本の読み聞かせ」を実施し、他町村からたくさんの方に参加していただき盛会に終えることができました。

これからも、会員一同読み聞かせを通して「心豊かな子に育ってほしい」と願いながら、30周年に向けてますます頑張る活動していこうと思います。



平成 30 年度 社会教育関係各種表彰受賞

表彰区分	被表彰者氏名・団体名	受賞月日	表彰者
社会教育功労者	福島県社会教育委員 佐藤 房枝 氏(会津坂下町) 明和地区読み聞かせボランティアの会元会長 堀金 保男 氏(只見町) 特定非営利活動法人福島県レクリエーション協会会長 本多 勉 氏(福島市) 国立磐梯青少年交流の家外部指導員 本多 勝男 氏(猪苗代町) 国立那須甲子青少年自然の家研修指導員 大竹 修司 氏(白河市)	11月2日	文部科学大臣
優良公民館	福島市杉妻学習センター 郡山市立柴宮地域公民館	11月2日	文部科学大臣
優良PTA	棚倉町立棚倉幼稚園父母と教師の会 会津若松市立行仁小学校父母と教師の会 下郷町立旭田小学校父母と教師の会	8月4日 11月21日 11月21日	文部科学大臣
PTA活動 振興功労者	(一社)全国高等学校PTA連合会元理事・調査広報委員長 関根 英樹 氏 福島県PTA連合会会長 小林 利明 氏 福島県私立幼稚園・認定こども園PTA連合会副理事長 伊藤 順朗 氏	8月20日 11月21日 11月21日	文部科学大臣
地域学校協働活動	西会津町地域学校協働本部 野木沢子ども教室(石川町) おのだなかよし教室(白河市) ふるさと田人を支える人材育成(いわき市)	12月3日	文部科学大臣
子供の読書活動優秀実践 図書館・団体(個人)	【図書館】南会津町図書館 【団体】ばんげ読み聞かせの会(会津坂下町)	4月23日	文部科学大臣
社会教育功労者	白河市社会教育委員 今野登志子 氏 前喜多方市社会教育指導員 高橋 明子 氏 ガールスカウト福島県連盟連盟長 山岸 敦子 氏	11月1日	福島県教育委員会
功績顕著な 団体・施設	【団体】磐梯町立磐梯第一小学校父母と教師の会 レディースニューライフ(会津美里町) 只見町立明和小学校PTA 【施設】須賀川市岩瀬公民館 会津若松市生涯学習総合センター 猪苗代町図書歴史情報館	11月1日	福島県教育委員会
全国社会教育 委員連合	元南相馬市社会教育委員 永岡 敏子 氏	10月25日	(一社)全国社会 教育委員連合
日本PTA 全国協議会	【団体】福島市立清水小学校父母と教師の会 いわき市立高野小学校・内郷第三中学校PTA 【個人】福島県PTA連合会前副会長 安藤 敦 氏 福島県PTA連合会前副会長 橋 文紀 氏 福島県PTA連合会前副会長 武山 剛 氏	11月21日	(公社)日本PTA 全国協議会
東北地区社会教育 委員連絡協議会	棚倉町社会教育委員 金澤 幸子 氏 会津美里町社会教育委員 長谷川文義 氏 広野町社会教育委員 田村 弘一 氏 いわき市社会教育委員 佐久間静子 氏 白河市社会教育委員 中島 功 氏	10月25日	東北地区社会教育 委員連絡協議会

平成 31 年度 福島県社会教育施設行事予定

福島県立図書館	福島県立美術館	福島県立博物館	福島県自然の家
《ふくしまを知る連続講座(3回)と関連展示》 ①福島県文化財センター白河館・学芸員(6月) 「ふくしま復興展 ～はま・なか・あいつ再生史～(仮題) *6月7日(金)～7月3日(水)に関連展示 ②福島県歴史資料館・学芸員(10月) 「奥会津の古文書 ～三島町・金山町・昭和 村を中心に～(仮題) *10月4日(金)～11月6日(水)に関連展示 ③伊達市保原歴史文化資料館・学芸員(11月) 「福島の偉人『三浦謙之介博士』(仮題) *11月8日(金)～12月4日(水)に関連展示	○伊藤若冲展 3/26(火)～5/6(月) ○やなぎみわ展 7/6(土)～9/1(日) ○関根正二展 9/14(土)～11/10(日) ○森田恒友展 11/23(土)～1/19(日) ○ジャポニズムの至宝展 3/24(火)～5/10(日)	○とりもどすきずな・つながる みらい 4/27(土)～6/9(日) ○興福寺と会津～徳一がつか いだ西と東～ 7/6(土)～8/18(日) ○ANIMAL×Zoo～ホネまで愛し て!!動物の考古学～ 9/7(土)～11/17(日) ○震災遺産を考える 2/11(火)～4/12(日)	○郡山自然の家 春のオープ ンデー 4/28(日) ○会津自然の家 春のオープ ンデー 5/26(日) ○いわき海浜自然の家 春のオー プンデー 5/19(日) ※詳しくは各自然の家ホームペ ージをご覧ください。

編集後記

本年度339号のテーマは「ふくしまの未来を創る地域と学校の連携・協働」です。学校が、地域を学びのフィールドとした体験型、探究型の活動を行うことにより、子どもたちに地域に対する誇りや社会に対する当事者意識が芽生え、自己肯定感の醸成や志の育成に加え、価値観が多様化する社会の中にあっても、迷うことなく主体的に生き抜く力が身に付くものと考えております。また、将来地域を担い、活躍する人材の育成にもつながるなど、学校教育の充実と地域の振興に相乗効果をもたらすのではないのでしょうか。

最後に、日々御活躍されている皆様から、大変お忙しい中、第399号「社会教育」に御執筆いただきましたことに対し、心から感謝申し上げますとともに、読者の皆様がそれぞれの地域や立場でより一層活躍されることをお祈りいたします。



平成 31 年 3 月 吉日 発行

社会教育 No. 339

編 集 社会教育課

発 行 福島県教育委員会

福島市杉妻町 2-16